

■効果の見える治水事業

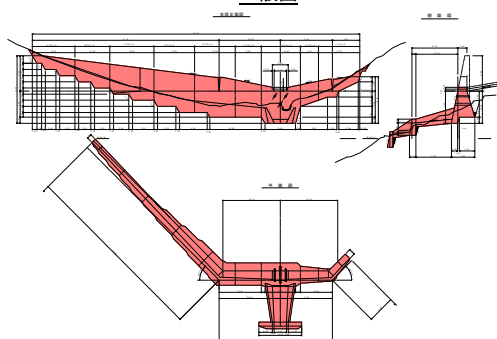
香川県 東碑殿川(善通寺市)の砂防事業

『東碑殿川 通常砂防工事』



香川県中讃土木事務所長 松岡 辰夫

一般図



事業箇所 善通寺市碑殿町
事業期間 平成17年度～平成23年度
全体事業費 290百万円
事業計画 砂防堰堤1基、流路工175m
堤高 8.5m
堤長 107.0m
堤体積 3,140 m³
貯砂量 1,600 m³
流域面積 0.1 km²

本溪流は、標高360mの天霧山に源を發し、2級河川弘田川に合流する、流域面積0.1 km²、渓床勾配1/3の溪流であります。流域の地質は風化安山岩から成り、河床及び溪岸には多量の土砂が堆積しており、大雨により土石流が発生する危険性が高まっている状況であります。また下流には、人家22戸、耕作地2haがあり、このまま放置すると下流域において土砂災害が発生する恐れがあります。

このような状況から、砂防ダム建設により土砂災害を未然に防止し、住民の生命及び財産を保全し、地域生活の安定を図るものであります。

当事業は、平成17年度に事業着手し、地元住民の皆様のご協力もあり、平成22年夏には砂防ダム本堤工が完成しました。

残る下流の溪流保全工については現在施工中であり、平成23年度半ばには完成見込みで、それにより、一連の砂防事業全てが完了する予定です。



着工前



平成23年2月時点

『安心・安全に暮らせる 災害に強いまちづくりを目指して』



善通寺市長 平岡 政典

善通寺市は、香川県の西北部に位置し、南は琴平町、まんのう町、北は丸亀市、多度津町、西は三豊市に囲まれた人口約3万4千人、面積39.88 km²の緑豊かな田園文化都市であります。本市は、この地で誕生した弘法大師が伽藍を創建し、父佐伯善通の名をとり「善通寺」と称したのがその由来であるとされています。まちには、旧陸軍設置時に整備された幹線道路が基盤の目のように走り、美しいまち並みと善通寺境内に聳える五重の塔の佇まいが歴史と文化の香りを今に伝え、訪れる人々の目を楽しませています。地形は平坦で、南に大麻山(おおさやま)、西に天霧山(あまぎりやま)と五岳の山々に囲まれ、まちの東側を金倉川、西側を弘田川、中谷川が南北に貫流し瀬戸内海へと続いています。

本市は比較的災害の少ないまちではありますが、この弘田川、中谷川は、豪雨のたびに氾濫し中心市街地で浸水被害を引き起こしています。現在、香川県において下流の多度津町から河川整備計画に基づき改修を進められていますが、本市の中心部までは相当区間が残っており、早急な事業の推進が望まれております。また、天霧山の麓を流れる東碑殿川は、河床勾配が急で、土砂の堆積、転石等で荒廃が著しく、土石流を誘発する河川であるため、香川県において平成17年度から「東碑殿川通常砂防事業」として整備に着手し、平成23年度の完成に向け整備が進められています。

近年は、異常気象によるゲリラ豪雨の発生が増加傾向であり、また、発生が予想されている東南海・南海地震など、いつ発生するかわからない自然災害から安心・安全な生活を守るためには、このようなハード事業を補完するソフト事業の推進が不可欠で、「自助」、「共助」、「公助」の連携を強化するなど、地域防災力を高め、あらゆる災害に強いまちづくりを進めて行く必要があります。本市は、地震や風水害による災害への備えとして、防災計画及び国民保護計画に基づく自主防災組織の育成、防災知識普及のための各種講演会等の実施、非常用備蓄物資の確保、非難施設等の整備などに取組んできました。今後は、これまでの取り組みを一層進め、「安心・安全に暮らせる災害に強いまちづくり」を目指します。



市道大門通り線から五重塔を望む



避難訓練説明会